

# 平成31年度 事業報告書

## 1. 実施概要

近年、我が国では、激甚な豪雨災害が頻発している。平成27年9月の関東・東北豪雨、平成28年8月の北海道を襲った4つの台風、平成29年7月の九州北部豪雨、平成30年7月豪雨等、毎年のように発生する豪雨災害に対して、「水防災意識社会」の再構築に向けた取組、水防法改正により各河川流域毎に設置された「減災対策協議会」（国、北海道、市町村等から構成）での取組、さらに平成30年12月に閣議決定された「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に係る取組等において、堤防強化や河道掘削・伐採などのハード対策や、各種ハザードマップ、タイムライン等の避難体制づくり、情報提供の充実などのソフト対策が、国と地域、関係機関により一体的に進められている。

このような中、昨年10月に発生した台風19号においては、関東や甲信、東北地方等で記録的な大雨となり、国及び県が管理する71河川140箇所では堤防が決壊するなどの甚大な被害が発生し、人命のみならず、生活や財産、社会経済活動を守るハード対策の必要性、さらに、気候変動への対応が急務であることが明らかとなった。これらを受け、昨年11月に「気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会」が社会資本整備審議会河川分科会に設置され、将来の気候変動の影響による降雨量の増加等を考慮した治水計画への転換や、既存ダムの洪水調節機能の強化、水災害対策とまちづくりの連携、河川・気象情報提供の改善・充実、中小河川におけるハザードマップ整備など、ハード・ソフト一体となった流域全体で備える水災害対策の検討が進められている。

これらを実践していくためには、河川管理者である国及び北海道、避難勧告等を行う市町村が連携するだけでなく、住民や地域の団体・企業等が主体的な行動をとれることが重要であり、いざという時に様々な関係者が一体となって動けるように、住民、地方自治体、国の機関が普段からコミュニケーションを重ねる場を作ることが重要である。

一方で、国においては、川の魅力を活かした北海道発のプロジェクトとして「かわたび北海道」の推進を打ち出し、川に関する情報の発信、魅力的な水辺空間の創出、水辺利活用の促進等を進めている。また、サイクルツーリズムについては、石狩川流域46市町村長で構成する石狩川流域圏会議において会議設立時から、その推進を図ってきており、国においても、平成29年から北海道全体のサイクルツーリズム推進に着手し、昨年8月に「北海道サイクルルート連携協議会」が設立されるなど、その本格展開に向けた動きが進んでいる。

このような中であって、石狩川振興財団は、各市町村やNPO、市民団体及び河川管理者と連携して、安全で潤いのある流域の実現を目指して、平成31年度の事業を実施してきたところである。平成31年度においては、公益目的事業として計画額(23,100千円)とほぼ同額の21,389千円(前年度比93%)を実施した。また、受託事業として597,460千円(前年度比104%)を実施し、当期一般正味財産増減額は57,703千円増(前年度比110%)となった。

平成31年度に実施した事業は次のとおりである。

## 2. 公益目的事業

### (1) 流域振興事業

- ① 川に関する情報や、川を軸としたまちづくりに関する情報交換を行うことを目的に、当財団が運営している「市町村河川情報委員情報交換会議(石狩川流域46市町村の担当部・課長で構成)」を、令和元年10月18日に開催した。今年度は、平成30年に発生した北海道胆振東部地震、7月豪雨等への対応や気候変動を踏まえた新たな検討、「かわたび北海道」の取組状況等について情報提供を受けるとともに、市町村やNPOが取り組んでいる川からのまちづくり等の事例が紹介された。

また、市町村に有意義と考えられる国土交通省、北海道開発局関連の情報を、「市町村河川情報委員ニュース」として、月に1度定期的にメール配信した。

- ② 石狩川流域市町村の連携を目的とする「石狩川流域圏会議」(平成23年度設立、石狩川流域の全46市町村長で構成)に対し、様々な協力・支援を行った。その中で、流域圏会議が主催して、令和元年7月8、9日に、恵庭市で行われた豪雨災害対策職員研修(市町村職員が対象)において、半日間の危機管理演習を実施した。同様に、天塩川流域においても、市町村職員を対象とした豪雨災害対策職員研修が、令和元年7月4、5日に名寄市で行われ、当財団では危機管理演習を実施した。

### (2) 河川学習活動事業

- ① 砂川遊水地管理棟において、市民団体や関係機関と連携して、子どもを対象とした魚類観察会、落ち葉を利用したアートづくり等の河川環境学習

活動を実施・支援するとともに、管理棟にある図書コーナーの子供向け図書の充実を継続して行った。平成 28 年度に砂川市在住の小学生からなる「キッズスタッフ」を立ち上げ、令和元年度も新たにメンバーを加え、来館者への説明、イベントの参加者への説明・支援を行った。

- ② 江別河川防災ステーション等において、江別市と連携し、小学生を対象としたボート乗船による自然体験、地域の歴史や河川に関する学習活動を行った。
- ③ 石狩川流域圏会議が主催して行った調査船「弁天丸」を活用した体験学習（恵庭市、旭川市、滝川市をはじめとする 6 市 1 町の小学生を対象とした環境・防災学習）への協力・支援を行った。

### (3) 市民団体等支援事業

- ① 河川美化、植樹、川での子供の学習活動、川に関する地域振興や教育などの活動を行う 36（継続 33、新規 3）の市民団体等に対して、計 6,420 千円（前年度比 99%）の助成を実施した。また、市民団体等が実施する河川美化活動に対してゴミ袋を提供した。
- ② 「スカイスポーツフェア」「川に学ぶ体験活動全国大会 in 石狩川」「水防災タイムライン・カンファレンス全国大会 in 北海道」等への協賛を行った。
- ③ 北海道全体の河川協力団体が参加する「北海道河川協力団体連絡会議」の開催を支援した。

### (4) 河川広報事業

- ① 石狩川水系の治水事業に係る地域に密着した情報を、広く道民・地域住民に提供し、河川とその周辺地域の結び付きを深めるため、広報誌「川と人」第 43 号を発行し、ホームページに掲載するとともに、印刷して、市町村、関係機関等に配付した。
- ② 河川啓発活動や川のイベントなどの情報をタイムリーに発信するとともに、インスタグラムに石狩川流域市町村等の写真をアップするなど、ホームページの充実を図った。また、石狩川流域の町や名所の撮影を引き続き行った。
- ③ 北海道のすべての一級河川等を対象に、川にまつわるイベント情報や観光情報等を一元的に発信する「かわたび北海道」ホームページを平成 30 年度に作成しており、令和元年度は SNS の活用や英語対応等の充実を図った。

た。また、「かわたび北海道」の取組を季節毎に紹介するチラシの作成やパネル展示（札幌駅地下歩行空間、ニセコ町、苫小牧市等）を実施した。

### **3. 受託事業**

#### **(1) 平成 31 年度河川管理施設地域活用方策検討業務**

北海道の一級河川の流域全体を対象として、川に関する情報を効果的に発信し、地域住民や観光客の水辺利用や周遊をサポートする「かわたび北海道」プロジェクトについて、その施策展開を円滑に進めるための検討を行った。

#### **(2) 石狩川上流・天塩川上流地域連携減災対策検討業務**

生産空間を支え、強靱で持続可能な地域づくりに寄与するため、石狩川上流・天塩川上流における河川空間を活用した地域の魅力向上、地域防災力向上に資する取組について検討を行った。

#### **(3) 石狩川下流地域連携方策検討業務**

地域と連携した河川管理や地域活動の活発化、防災力の向上を図るため、地域住民や地域活動団体、自治体等との連携の推進及び協働体制の構築・発展に向けた方策について検討を行った。また、「かわたび北海道」プロジェクトの効果的な展開に向けた検討を行った。

#### **(4) 石狩川下流河川総合学習支援業務**

石狩市等の小中学生や住民、市民団体に対して、学校等と連携しながら、調査船「弁天丸」や「川の模型」等を活用して、治水事業や災害の歴史、河川環境等について総合学習・社会学習の支援業務を行った。

#### **(5) 砂川遊水地管理棟等施設管理外(滝川河川事務所)業務**

治水施設である砂川遊水地管理棟の施設管理、来館者対応等を行った。

#### **(6) 河川関連事業計画支援事業**

当財団に蓄積されている河川や流域の情報を活用して、河川関連事業の計画立案を支援する業務を、札幌開発建設部本部等 10 箇所を実施した。

### **4. 出版事業**

「石狩川の橋物語」等の書籍販売を行った。